

日本なしの果肉崩壊症

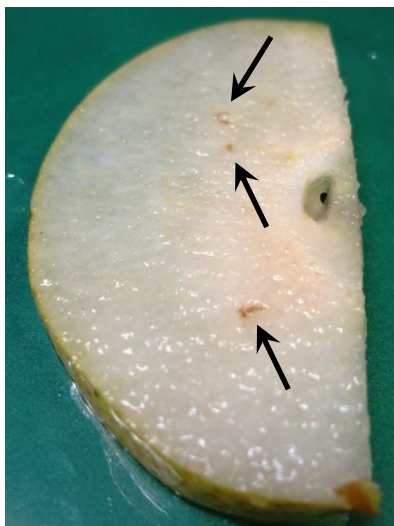
南信農業試験場

なしの果実を切ってみると、白い果肉に茶褐色のシミのようなものが見られることがあります。このような症状は「果肉崩壊症」と呼ばれ、微量元素の欠乏による生理障害です。

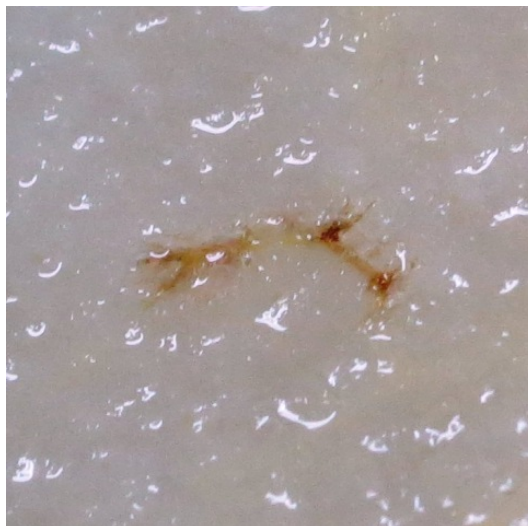
果実の外観からは分からず、果肉に発生し、果実の赤道面より上部に発生しやすいとされますが、果芯部付近や果肉全体に散在する場合があります。症状には、果肉内の維管束が“え死”してシミや黒いスジに見えるタイプ、“え死”部が空洞化するタイプ、小さな“え死”部を中心に果肉が水浸状になるタイプがあります。品種によって発生しやすさが異なり、「菊水」に特異的に発生が多いとされますが、「二十世紀」や「南農ナシ3号（二十世紀×日の出）」などの青ナシにも発生がみられます。

この症状は、ホウ素の欠乏が原因と考えられており、成葉中のホウ素含量が13～18ppm以下、果肉中の含量が16ppm以下で発生することが確認されています。栽培条件では土壌中の水溶性ホウ素含量が0.2ppm以下の条件で発生し、気象条件では開花期から幼果期の低温多雨が発生しやすいとされます。また、果実肥大後期の高温適湿など、果実肥大が助長される条件でも発生しやすいとされています。

ホウ砂、ホウ酸、FTE（総合微量元素肥料）、BMようりんなど、ホウ素を含む化成肥料を適量施用し、土壌中のホウ素含量を0.3ppm以上に維持することにより発生を防止できます。



果肉に散在する症状（矢印）



維管束が褐変した状態

担当者	島津 忠昭	電話番号	0265-35-2240
-----	-------	------	--------------

[試験場だより・知って納得情報へ](#)

[南信農業試験場ホームページへ](#)